

	矯正治療により骨の平坦化を図った重度歯周炎症例
A case report of severe chronic periodontitis through bone leveling in conjunction with orthodontic approach	
石川創一	／ISHIKAWA, Soichi
会員番号：2467	
関東支部 石川デンタルクリニック	
指導医：関東支部・鎌田征之	
キーワード：咬合性外傷，トゥースポジション，下顎位	
<p>I. はじめに</p> <p>歯周病は、慢性疾患，生活習慣病の特徴を持ち，複雑な因子が絡み合っているため，その病因を模索していき，そのひとつひとつを解決していくことが大切だと考えている．とくに咬合性外傷を伴う重度歯周炎患者においては，細菌性因子の改善のみならず，力の因子の改善や宿主因子を含めた3本柱の改善が最重要となる．今回，叢生を伴うアングルⅡ級重度歯周炎患者に対して，歯周基本治療後，全顎的に矯正治療を施し，各歯牙のトゥースポジションや下顎位の是正を行い，歯周組織の改善と咬合の安定に努めた症例を報告する．</p> <p>II. 症例の概要</p> <p>患者：46歳，女性，喫煙者          初診：2014年2月          主訴：左上の奥歯が痛い          全身的既往歴：特記事項なし</p> <p>診査所見：PPD4mm以上64%，BOP75%，37・47動揺度2度，24・27動揺度3度，乱れた上下顎の歯列，強いスピーの彎曲，左右ともアングルⅢ級の大白歯関係，下顎白歯の著しい近心傾斜を認めた．</p> <p>III. 診断名</p> <p>広汎型重度慢性歯周炎</p> <p>IV. 治療計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 徹底的な歯周基本治療</li> <li>② 禁煙指導を含めた健康意識の向上</li> <li>③ 全顎的矯正治療による咬合関係の改善</li> </ol> <p>V. 治療経過</p> <p>患者の治療に対するコンプライアンスは非常に高く，禁煙指導後にすぐに禁煙をした．毎晩のブラッシングは1時間を越え，歯周病罹患歯に細心の注意を払い食事を行った．結果として，歯周組織は格段に回復し，安定傾向を認めたので全顎的な矯正治療へと移行した．矯正治療により，乱れた歯列や近心傾斜の歯は改善し，後方に位置した下顎は前下方へと適応し，維持安定傾向となった．</p> <p>VI. 考察およびまとめ</p> <p>本症例は咬合性外傷を伴う広汎型重度慢性歯周炎の患者に矯正治療を応用したものだだったが，矯正治療に関して，当初施術できるか疑問であった．しかし，患者の口腔内への取り組みはもちろんのこと，全身への健康観も限りなく高くなり，そのおかげで，術者の思惑以上の成果を得ることができた．</p> <p>結果として，基本治療終了後の不安定なトゥースポジションから，安定傾向の咬頭嵌合位を得ることができた．現在も患者の口腔内は歯周組織，咬合とも安定した状態を維持しており，患者の健康観も増すばかりである．</p>	
<p>略歴</p> <p>2000年 日本歯科大学歯学部卒業          2000年 東京医科歯科大学付属病院顎顔面外科          2005年 医療法人社団輔仁会 石川デンタルクリニック</p>	